

業務を担当して 5～6 年の方を対象とした内容です

- ・「健康食品の安全性（安全・安心な製品の提供）」
- ・「消費者基本法・消費者安全法・消費者契約法・景品表示法・特定商取引法・製造物責任法」

[詳細はこちら](#)

* アドバイザリースタッフ単位取得対象です

食品保健指導士【1 単位】、健康食品管理士【5 単位】、NR・サプリメントアドバイザー【3 単位】

健康食品等に関する 日本語記事情報（2023 年 1 月号 No.1）

本文書では、インターネットの日本語記事情報から、（公財）日本健康・栄養食品協会
学術情報部が独自の視点で皆様の事業遂行に役立つと判断したものをご紹介します。

（例：法令・行政情報、新製品・新分野の製品の企画開発及び研究開発のお役立ち情報、安
全性確保の取組みに活用出来る情報、その他ビジネス環境変化に係る情報等）

**なお、記事の内容の正確性を当協会が保証するものではありません。また、特定の企業、
食品素材・成分、製品などの情報が含まれる場合においても、当協会が支援・推進・推奨す
るものではありません。**

英文記事情報については別途お送りいたします。

○ 記事のカテゴリー（見出しをクリックすると該当カテゴリーに移動します）

[安全性関連情報](#)

[表示、販売等に関する行政機関のアクション情報等](#)

[行政・法令関連情報（その他）](#)

[海外公的機関情報](#)

[市場予測、動向（食品・健康食品全般）](#)

[具体的健康ニーズ・素材・成分、製品情報（市場予測・動向等）](#)

[市場・企業動向、注目ビジネス情報](#)

[消費者意識等の調査・分析](#)

[食品・食品成分の生理機能、健康関連科学情報](#)

[その他の食品関連科学・技術情報](#)

[その他の科学・技術情報](#)

[その他](#)

記事によっては短期間でリンク切れになるものがあります。その点ご了承ください。

○ 記事一覧

基本情報（記事見出し、出典・日付、URL）と冒頭文または記事のポイントとなる部分を表示しております（民間の情報源には了承を得た上で転載）。なお、基本情報のみで記事内容の把握が可能と思われる場合は基本情報のみとしております。

■ 安全性関連情報

[BfR]ヘンプを含む食品の健康リスクに関するよくある質問

食品安全情報 blog2 - 2023/1/6

<https://uneyama.hatenablog.com/entry/2023/01/06/174852>

補足：1月6日更新分の中ほどの太見出し。かなりボリュームがあります。

食品安全情報（化学物質） No.1 (2023.01.06)

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2023/foodinfo202301c.pdf>

（別添）<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2023/foodinfo202301ca.pdf>

全リスト

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/index.html>

■ 表示、販売等に関する行政機関のアクション情報等

ステマは「不当表示」に 消費者庁が規制の方向性を示す

ITmedia NEWS - 2022/12/27

<https://www.itmedia.co.jp/news/articles/2212/27/news160.html>

消費者庁が開催する「ステルスマーケティングに関する検討会」は12月27日、広告でありながら消費者にはそうと伝えないステルスマーケティング（ステマ）は規制の必要性があるとする報告書をまとめた。現状は広告であるとの表示がない広告でも、不当表示に該当する文言がなければ規制できないが、ステマそのものを不当表示の一つとする方針を――

[記事のカテゴリ](#)に戻る

■ 行政・法令関連情報（その他）

第 8 回ステルスマーケティングに関する検討会の資料を公表しました。

消費者庁 - 2022/12/26

https://www.caa.go.jp/policies/policy/representation/meeting_materials/review_meeting_05/031493.html

12 月 27 日開催分です。前のカテゴリでご紹介した記事はこれに関連しています。

報告書案

https://www.caa.go.jp/policies/policy/representation/meeting_materials/assets/representation_cms216_221226_03.pdf

「ステルスマーケティングに関する検討会報告書(案)」に関する意見募集の結果の公示について

消費者庁 - 2022/12/28 <https://www.caa.go.jp/notice/entry/031692/>

第 9 回 景品表示法検討会の議事録を公表しました。

消費者庁 - 2022/12/29

https://www.caa.go.jp/policies/policy/representation/meeting_materials/review_meeting_04/030951.html

不当景品類及び不当表示防止法施行規則の一部を改正する内閣府令（案）について

e-Gov パブリック・コメント - 2023/1/4

<https://public-comment.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=235070043&Mode=0>

厚生労働省、健康食品成分「イチイ」の果実を非医薬品リストから除外へ 対応を一転、1 年間の猶予期間を設定

マイナビニュース - 2022/12/28

<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20221228-2548639/>

特別用途食品の許可等に関する委員会の開催について

[記事のカテゴリーに戻る](#)

■ 海外公的機関情報

[BfR]ヘンプを含む食品及び飼料の健康リスクに関するよくある質問

食品安全情報 blog2 - 2022/12/28

<https://uneyama.hatenablog.com/entry/2022/12/28/165323>

ドイツ連邦リスク評価研究所（BfR）の情報です。12月28日分の4番目の太見出し。

保健省、食品プラ容器や遺伝子組み換え食品に係るオンライン申請受け付け開始（タイ）

日本貿易振興機構（ジェトロ） - 2022/12/26

<https://www.jetro.go.jp/biznews/2022/12/f323ca97d744733f.html>

■ 市場予測、動向（食品・健康食品全般）

健康食品をヒット予測！『日経トレンドィ』編集長が考える、“これから売れる商品”とは？

ウェルネス総研レポート online - 2022/12/23 <https://wellnesslab-report.jp/2601/>

ヒットする商品にはワケがあります。数多ある商品の中で、消費者に選ばれる品を生み出すためには、どのような視点が必要なのでしょうか？今回は、国内マーケットのトレンドに精通した「日経トレンドィ」編集長の澤原昇氏に、今後のヘルスケア商品の傾向について、お聞き-----

国内 No.1 AI 食事管理アプリ『あすけん』、「ダイエットトレンド」予測 2023 を発表！

2023年こそ痩せたい人におすすめの「5つの新・食習慣」をあすけん栄養士が提案

株式会社あすけん - 2022/12/23

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000075.000058653.html>

累計会員数 800 万人超*¹、国内 No.1*²の AI 食事管理アプリ『あすけん』の開発・運営を行う株式会社 asken(東京都新宿区、代表取締役社長 中島洋、以下「当社」)は、『あすけん「ダイエットトレンド」予測 2023』を発表しましたので、お知らせ-----

富士経済、デザート・米飯類・めん類の国内市場調査、2023 年市場予測はフロズンデザートが 2022 年見込比 2.5%増の 5794 億円

マイライフニュース - 2022/12/28

<https://www.mylifenews.net/data/2022/12/20232022255794.html>

総合マーケティングビジネスの富士経済は、加工食品（27 カテゴリー403 品目）のうち、他の機能系商品との競合などがみられるチルドデザート、マルチパックアイスが好調なフロズンデザート、健康意識の高まりで需要が増加しているドライデザート、高騰する小麦に価格優位性を持つ米飯類、本格志向商品のニーズが高いめん類、オートミールや栄養バランス食（ソリッド）が好調なその他ステープルの計 6 カテゴリー66 品目の調査を「2023 年 食品マーケティング便覧 No.3」にまとめ----

[記事のカテゴリーに戻る](#)

■ 具体的健康ニーズ・素材・成分、製品情報 （市場予測・動向等）

「風味」「エビデンス」訴求による市場開拓(特集／健康茶)

健康メディア.com - 2022/12/23

https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/16982

今年の健康茶市場は、腸活訴求のよもぎ茶や美容訴求のルイボスティー、ノンカフェインのハーブティーやフルーツティの需要が目立った。エビデンス訴求商品では、ムクナ豆の L-ドーパ成分に着目した商品開発も。熱に弱い L-ドーパの性質を克服した国内初の茶製品が登場----

栄養素の宝庫、サステナブル性に脚光（特集：サケ由来機能性素材）

健康メディア.com - 2023/1/4 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/17013

プロテオグリカン、海洋性プラセンタ、核酸などサケ由来の機能性素材が東南アジアで伸長している。現地では、「サケ＝高級魚」のイメージが定着。前年比 2 ケタ以上の成長率を示す原料も少なくない。栄養価の高さに加えて、サステナブル性にも優れていることから、健食・化粧品共に需要が拡大。四足動物からサケ由来の原料に切り替えを進める美容ブランドも増加しているようだ。一方で、----

機能性表示が続々、表示内容も多彩に（特集：注目のダイエット食品）

健康メディア.com - 2023/1/6 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/17022

ダイエット食品においても機能性表示食品が存在感を増している。ブラックジンジャー、葛の花、ターミナリアベリリカ、サラシア、アフリカマンゴノキ、リンゴポリフェノール— など、機能性表示対応素材が増え、製品開発が活発化。市場では、「お腹まわり」「ウエスト」「体重」「脂肪」「BMI」「ヒップ」などの文言を活用したサプリメント、飲料などが流通する。最近では「むくみ」といった文言を活用した商品も目立つ----

■ 市場・企業動向、注目ビジネス情報

国内の食品企業として初のトランジション・リンク・ローン※1 実行のお知らせ

～令和4年度温暖化対策促進事業費補助金※2 及び産業競争力強化法に基づく成果連動型利子補給制度を適用～

キリンホールディングス株式会社 - 2022/12/26

https://www.kirinholdings.com/jp/newsroom/release/2022/1226_01.html

キリンホールディングス株式会社（社長 磯崎功典）は、国内の食品企業として初のトランジション・リンク・ローンによる資金調達（以下、本ローン）を2023年1月に実行する予定です。本ローンは、2022年12月更新の「キリン・サステナブルファイナンス・フレームワーク」※3に基づくものであり、当社がScope1とScope2の温室効果ガス（GHG）排出量削減に向けた取り組みとして推進する省エネ、および再生可能エネルギー関連のプロジェクトに充当する予定です。また、本ローンについては、経済産業省による令和4年度温暖化対策促進事業費補助金及び産業競争力強化法に基づく成果連動型利子補給制度（カーボンニュートラル実現に向けたトランジション推進のための金融支援※4）が適用-----

革新的な加水分解技術を持つ「日本ハイドロパウテック株式会社」と資本業務提携

株式会社ロッテ - 2023/1/6 <https://www.lotte.co.jp/info/news/pdf/20230105084255.pdf>

野菜摂取量推定機「ベジチェック®」令和四年度（第三十六回）「新技術・食品開発賞」を受賞

カゴメ株式会社 - 2022/12/23

<https://www.kagome.co.jp/library/company/news/2022/img/2022122301.pdf>

世界で台頭する「培養肉・代替肉ベンチャー」の新潮流

「株式会社オルタナ/オルタナオンライン」（無断転載を禁じます） - 2022/12/21

<https://www.alterna.co.jp/63629/>

動物を殺さない「代替肉」「培養肉」への投資が急増している。今後 9 年間で 245 億円以上の投資を発表したデンマークを皮切りに、カナダ、オーストラリア、オランダ、EU、シンガポール、イスラエル、米国と続く。世界で台頭する「培養肉・代替肉ベンチャー」の新潮流を紹介する。（NPO 法人アニマルライツセンター代表理事＝岡田 千尋）

[記事のカテゴリーに戻る](#)

■ 消費者意識等の調査・分析

今回は特に見当たりませんでした。

■ 食品・食品成分の生理機能、健康関連科学情報

低糖質・高タンパク質食生活で作業記憶能が低下、群馬大学が検証

大学ジャーナルオンライン - 2023/1/9 <https://univ-journal.jp/204141/>

群馬大学の島孟留講師らの研究グループは、マウスを用いて、4 週間の低糖質・高タンパク質食摂取が作業記憶能を低下させ、海馬での神経の新生や成長・生存に関係するタンパク質の mRNA 量を低下させることを見出し-----

ポリフェノール「イソラムネチン」による心房細動予防メカニズムを解明―産総研ほか

QLifePro 医療ニュース - 2022/12/23

[http://www.qlifepro.com/news/20221223/isorhamnetin.html](http://www qlifepro.com/news/20221223/isorhamnetin.html)

NASH 抑制作用、抗糖尿病効果が判明しているイソラムネチンに着目

国立産業技術総合研究所（産総研）は 12 月 22 日、天然に存在するポリフェノールの一種であるイソラムネチンが不整脈の一種である心房細動の発症を予防する生理活性を持つことを見出したと発表した。この研究は、同研究所食薬資源工学オープンイノベーションラボトリーの青沼和宏特別研究員、富永健一副ラボ長、筑波大学生命環境系の磯田博子教授、医学医療系の許東洙准教授の研究グループによるもの。研究成果は、「Clinical Science」に掲載-----

▼関連リンク

- ・産業技術総合研究所 研究成果

https://www.aist.go.jp/aist_j/press_release/pr2022/pr20221222/pr20221222.html

高血圧発症メカニズム、腎臓と皮膚による電解質・体液制御機構が関与 —香川大ほか

QLifePro 医療ニュース - 2023/1/4 <http://www qlifepro.com/news/20230104/shr.html>

本態性高血圧症モデルの自然発症高血圧ラットで

香川大学は 12 月 27 日、本態性高血圧症のモデルの自然発症高血圧ラット（SHR）を用いて、腎臓-皮膚連関の観点から新たな高血圧の発症機序を発見したと発表した。この研究は、同大医学部薬理学所属の医学部医学科 4 年生の小倉卓浩氏、西山成教授ら、デューク-シンガポール国立大学の研究グループによるもの。研究成果は、「Hypertension Research 誌」に掲載され----

▼関連リンク

・香川大学 プレスリリース <https://www.kagawa-u.ac.jp/29360/>

食事パターンは「遺伝的な酒の強さ」だけでなく「実際の飲酒量」で決 まる可能性—順大

QLifePro 医療ニュース - 2023/1/5 <http://www qlifepro.com/news/20230105/aldh2-2.html>

ALDH2 遺伝子多型と食事パターンの関連は不明だった

順天堂大学は 12 月 26 日、文京区在住の高齢者 1,612 人を対象とした調査により、酒の強さを決める遺伝子が食事パターンと関連するが、実際の飲酒量によって食事パターンが再規定されていることを明らかにしたと発表した。この研究は、同大大学院医学研究科スポーツ医学・スポーツロジの杉本真理大学院生、田村好史前任准教授、河盛隆造特任教授、代謝内分泌内科学 綿田裕孝教授らの研究グループによるもの。研究成果は、「Nutrients」オンライン版に掲載され-----

▼関連リンク

・順天堂大学 プレスリリース <https://www.juntendo.ac.jp/news/20221226-01.html>

体温調節制御メカニズムの全貌解明につながるマスター神経細胞を同定 —名大ほか

QLifePro 医療ニュース - 2022/12/27

<http://www qlifepro.com/news/20221227/prostaglandin-ep3-body-temperature.html>

脳の視索前野、体温調節を司る重要な司令塔の神経細胞については不明点が多い

名古屋大学は 12 月 26 日、脳の中で体温調節の司令塔として機能する神経細胞群をラットで同定したと発表した。この研究は、同大大学院医学系研究科統合生理学分野の中村佳子講

師、中村和弘教授、順天堂大学大学院医学研究科脳回路形態学の日置寛之教授らの研究グループによるもの。研究成果は、「Science Advances」にオンライン掲載----

▼関連リンク

- ・名古屋大学 研究成果発信サイト

<https://www.nagoya-u.ac.jp/researchinfo/result/2022/12/post-421.html>

有機ゲルマニウムの鎮痛作用メカニズム解明、難治性疼痛治療の開発に期待—近大ほか

QLifePro 医療ニュース - 2023/1/10

<http://www qlifepro.com/news/20230110/ge-132-pain.html>

有機ゲルマニウムが硫化物と反応することで鎮痛効果をもたらすかを検証

近畿大学は1月6日、健康食品として市販されている有機ゲルマニウムが、生体内で知覚神経を興奮させる作用のある硫化物を捕捉することで、鎮痛作用をもたらすことを明らかにしたと発表した。この研究は、同大薬学部医療薬学科病態薬理学研究室の川畑篤史教授、関口富美子准教授、坪田真帆講師、同有機薬化学研究室の田邊元三教授、株式会社浅井ゲルマニウム研究所（北海道函館市）の島田康弘氏、中村宜司氏、山形大学大学院医学系研究科創薬科学講座の山口浩明教授らの研究グループによるもの。研究成果は、「Redox Biology」にオンライン掲載----

▼関連リンク

- ・近畿大学 NEWSCAST <https://newscast.jp/news/0369171>

加齢黄斑変性などの神経炎症リスク、肥満の解消後も自然免疫に記憶される—京大ほか

QLifePro 医療ニュース - 2023/1/10

<http://www qlifepro.com/news/20230110/past-obesity-neuroinflammation.html>

加齢黄斑変性の発症に関与する肥満、痩せることで発症を抑える効果があるかは不明

京都大学は1月6日、肥満を改善させることで加齢黄斑変性（AMD）発症が抑えられるかを検討したところ、予想に反して、過去の肥満が自然免疫系に長期間記憶されており、晩年の神経炎症やAMDに悪影響を与えることを発見し、そのメカニズムを突き止めたと発表した。この研究は、同大医学部附属病院眼科の畑匡侑特定講師（研究当時 モントリオール大学ポスドク）、モントリオール大学のPrzemyslaw Sapienza教授らの研究グループによるもの。研究成果は、「Science」に掲載され----

▼関連リンク

- ・京都大学 最新の研究成果を知る

<https://www.kyoto-u.ac.jp/ja/research-news/2023-01-06-0>

リンパ管壁のタンパク質分解が全身の免疫バランスに波及する -- 新たな血管保護の仕組みを解明 --

大学プレスセンター - 2022/12/28 <https://www.u-presscenter.jp/article/post-49767.html>

昭和大学（東京都品川区／学長：久光正）の宮崎拓郎准教授（医学部生化学講座）、宮崎章教授（同）を中心とした研究グループは、東京大学、愛知医科大学、ロンドン大学との共同研究により、細胞内プロテアーゼ「カルパイン」による過剰なタンパク質分解によりリンパ管に起因する免疫抑制が低下し、血管にて動脈硬化症が引き起こされる仕組みを世界で初めて明らかにしました。本研究成果は、2022年12月15日（米国東部標準時間）に米国心臓協会誌「Arteriosclerosis, Thrombosis, and Vascular Biology」（impact factor 10.514）のオンライン版に掲載され----

ミトコンドリアを活性化する「5-ALA」の力と細胞再活性への期待

ウェルネス総研レポート online - 2022/12/28

<https://wellnesslab-report.jp/2608/>

ミトコンドリアを活性化する 5-ALA（ファイブアラ、5-アミノレブリン酸）が今、新型コロナウイルス感染症の治療や予防に関する特許を取得したこともあって注目を集めています。これはヒトの体内でも合成されるほか、納豆やほうれん草など食品にも含まれている天然のアミノ酸です。昨今の「細胞再活性化」に対する関心が高まりつつあるなか、5-ALAに関する研究では数々のおどろくべき報告も。今回は、長崎大学 大学院 熱帯医学・グローバルヘルス研究科・研究科長の北 潔教授に、5-ALAに関する研究結果や今後の展望に----

以下の6件は、一般社団法人日本スポーツ栄養協会 公式情報サイト「スポーツ栄養 Web」掲載記事（2022年12月23日～2023年1月10日）から選定したものです。

持久力運動中の炭水化物の酸化率は、エネルギー可用性の高低で異なるのか？

<https://sndj-web.jp/news/002093.php> （2022/12/23）

利用可能なエネルギーが十分な時とそうでない時で、炭水化物の酸化率が異なるのか否かを検討した研究結果が報告された。立命館大学大学院スポーツ健康科学研究科の後藤一成氏らの研究によるもので、「PLOS ONE」に論文が掲載された。極端な条件設定ではなく、多くの持久系スポーツアスリートが経験する可能性のある、一般性の高い条件設定で行われている点が特徴としてあげられ-----

発表！ 2022 年、スポーツ栄養 Web で最も読まれたニュース・トピックスランキング トップ 30!!

<https://sndj-web.jp/news/002102.php> (2022/12/29)

世界のアスリートのサプリメント使用状況を考察したスコアリングレビュー

<https://sndj-web.jp/news/002098.php> (2023/1/4)

世界中のアスリートのサプリメント利用状況をスコアリングレビューにより考察した論文が報告された。アスリートのサプリ利用率は報告によってまちまちであり、また利用されるサプリの種類の性差などが浮かび上がった。その一方で、サプリ使用の理由や情報源については一貫性がみられたと-----

“暗闇のホルモン” メラトニンは、“日光のビタミン” ことビタミン D に続くのか？

<https://sndj-web.jp/news/002103.php> (2023/1/5)

「Is Melatonin the "Next Vitamin D"? (メラトニンは次のビタミン D?)」というタイトルのレビュー論文が発表された。ビタミン D は、当初は骨代謝との関連で注目され骨粗鬆治療薬としても用いられるようになったが、免疫機能を高めたり抗炎症作用など多彩な作用を有することが明らかになり、現在でも新たな知見がしばしば報告されている。睡眠関連ホルモンとして研究されてきたメラトニンも、そのような展開をみせるのだろうか。米国とオーストラリアの研究者による報告の一部を紹介する。4 万字以上の長文の論文中では、アスリートでのメラトニン使用のメリットについても触れられて-----

8 週間の β -アラニン摂取で、男子バスケット選手の炎症反応が低下し最大無酸素パワーが増大

<https://sndj-web.jp/news/002104.php> (2023/1/6)

バスケットボール選手での β -アラニン摂取の有用性が報告された。8 週間の介入でプラセボに比べて炎症マーカーの有意な低下と、最大無酸素パワーの有意な上昇が認められたという。ルーマニアの研究者らの-----

「高タンパク食でテストステロンが低下する」というメタ解析の結果をどう解釈するか？

<https://sndj-web.jp/news/002105.php> (2023/1/7)

「High-protein diets and testosterone（高タンパク食とテストステロン）」というタイトルの論文が発表された。テストステロンは男性ホルモンであり、タンパクの同化を促進し筋量や骨量を増加して、スポーツパフォーマンスにとってプラスに作用する。ところが最近、摂取タンパク質量とテストステロンレベルとの関連を検討した研究報告を対象とするメタ解析の結果、高タンパク食ではテストステロンが低下する可能性が示され（DOI: 10.1177/02601060221083079）、議論を呼んでいる（冒頭にタイトルを示した今回取り上げる論文は、その議論を整理する目的で執筆された、英ウスター大学の研究者による論文…

[記事のカテゴリー](#)に戻る

■ その他の食品関連科学・技術情報

合成カンナビノイドの摂取を検出する3つのバイオマーカー特定—乱用の可能性監視へ シンガポール

サイエンスポータルアジアパシフィック - 2022/12/

https://spap.jst.go.jp/asean/news/221205/topic_na_02.html

辛くないトウガラシ「ししとう」が辛味を喪失した遺伝メカニズムを解明 信州大学

大学ジャーナルオンライン - 2023/1/6 <https://univ-journal.jp/203947/>

■ その他の科学・技術情報

資生堂、立体形状と肌内部の散乱光を解析する、世界初の光学計測システムを開発 ～加齢による肌の透明感減少に関わる主要な要素を発見～

株式会社資生堂

https://corp.shiseido.com/jp/news/detail.html?n=00000000003538&rt_pr=trm47

資生堂は、ノルウェー科学技術大学との共同研究により、顔の立体形状に加えて、これまで分析が難しかった肌内部の散乱光を、非侵襲的にビジュアルや数値で総合的に計測・解析できる画期的な光学計測システムを開発しました(図1)。このシステムを使い、のべ1,000名以上の肌を計測し、肌の透明感に重要な内部散乱光を解析したところ、加齢によって内部散乱光が減少すること、また、内部散乱光にはメラニンや角層の状態など5つの要素が関連することが明らかになりました。本研究の成果のうち、光学計測システムの開発については、論文誌「Journal of Imaging Science and Technology」へ投稿し、「Charles E. Ives

Journal Award」を受賞しています(※1)。また、本研究の成果の一部は、Optics & Photonics Japan 2022 (2022/11/13-11/16) でも発表-----

ジーンクエストと東京大学、日本人のプレジジョン栄養に重要な遺伝子多型を同定したことを論文で発表

株式会社ジーンクエスト - 2022/12/21 <https://genequest.jp/topics/news/0/582>

株式会社ジーンクエスト（本社：東京都港区、代表取締役：高橋 祥子）および、国立大学法人東京大学大学院農学生命科学研究科 健康栄養機能学社会連携講座（東京都文京区、加藤 久典特任教授）による共同研究により、お酒の代謝に関わる遺伝子多型（SNP）※1の遺伝型別に多様な食行動と体格（BMI※2）の関連度合いが異なることを発見し、その成果が専門誌「Nutrients」にて2022年12月1日に公開-----

[記事のカテゴリー](#)に戻る

以上

■ 内容についての問合せ先：

公益財団法人 日本健康・栄養食品協会 学術情報部

E-mail：gakuj@jhnfa.org

電話番号：03-3268-3133

■ 学術誌「健康・栄養食品研究」論文募集のご案内とお願い

学術誌「健康・栄養食品研究」への投稿論文を随時募集しております。

当協会の学術誌「健康・栄養食品研究」は、健康食品に関するオープンアクセスオンラインジャーナルです。ヒト試験（介入試験等）以外の論文、研究会の報告、総説なども投稿できます。また、英文での投稿も受け付けております。

最新刊：<http://jhnfa.jp/>

[投稿規定などはこちら](#)

■ 「健康・栄養食品研究」掲載論文の転載をご希望の方へ

当協会指定の書式に必要事項を記入して、申請頂く必要がございます（料金はかかりません）。なお、販促資料への利用等の商業利用の場合は、申請の条件として「執筆者（又は資金提供者）への内容提示と了解取付」、「転載内容が分かる関連資料の提出」をお願いしております。申請書が必要な方は、学術情報部までご連絡下さい。

投稿先・問合せ先：学術情報部

E-mail：gakuj@jhnfa.org

電話番号：03-3268-3133